

清涼飲料業界としての ペットボトルのボトルtoボトル（水平リサイクル）推進

2022年10月14日

一般社団法人 全国清涼飲料連合会

一般社団法人 全国清涼飲料連合会（略称：全清飲）

清涼飲料水製造企業の会員ならびに関連する業界の賛助会員で構成。
前身母体の全国清涼飲料水同業組合の時代から数えると100年以上の歴史をもつ
清涼飲料水の業界団体です。

68会員 **236**社

組合会員（中小清涼飲料製造業）

19会員 **153**社

企業会員（清涼飲料製造業）

49会員 **83**社

賛助会員（関係業者等）

143社

2022年7月現在

2021年 清涼飲料水業界の概要

加工食品トップクラスの大きな産業

生産者販売金額

3兆8,909億円

消費者の生活に深く浸透

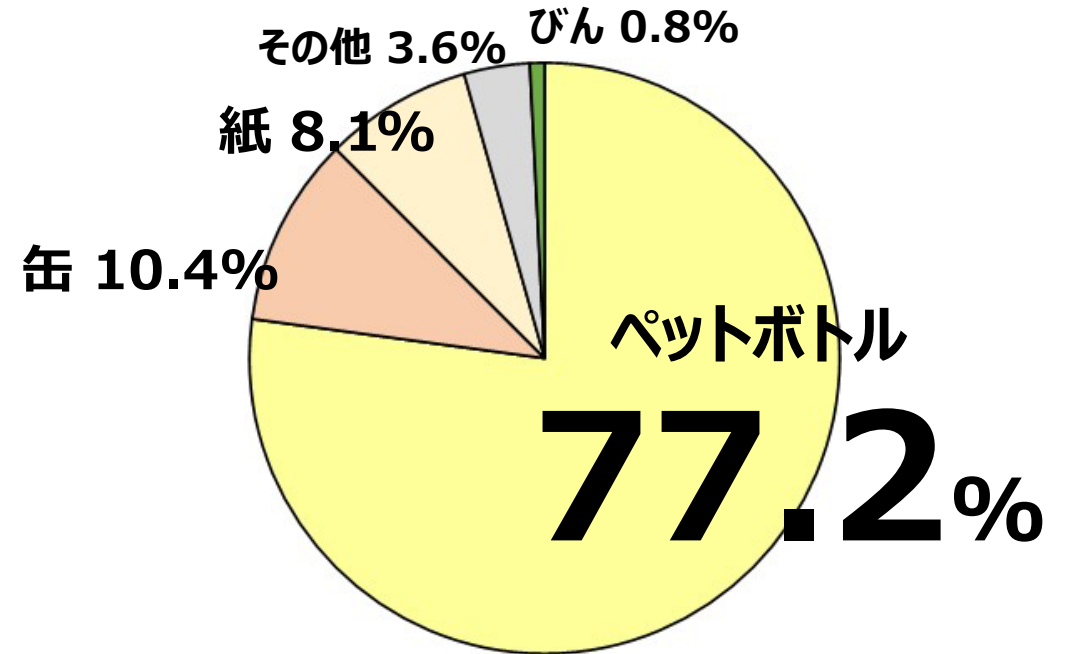
総生産量 22,125千kl

1人平均 1日あたりの消費量は

約483ml

多様な消費者ニーズにお応えするペットボトル

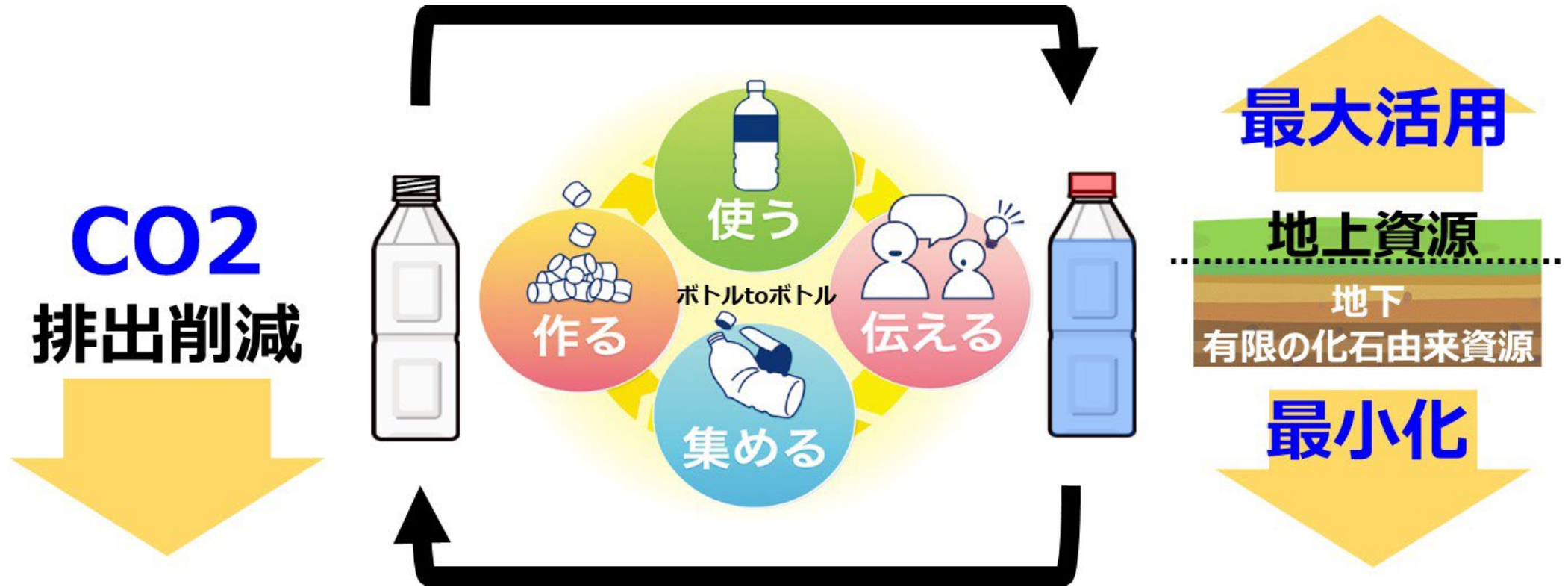
容器別生産量シェア(2021年)



- 軽くて丈夫、持ち運びしやすい
 - 繰り返しキャップができる
 - 加工しやすくサイズが豊富
 - 中身が確認できる
- 等

ペットボトルは資源です。

ボトルtoボトル(水平リサイクル) は同じ材料を何度も資源循環させるリサイクル。
「資源循環」と「CO2排出抑制」の両輪で貢献していく。



サーキュラー(循環) & エコロジカル(地球との共生)・エコノミーの実現

清涼飲料業界のペットボトルのリデュース・リサイクルに向けた取組

1990年代初頭～

➔ 現在



1982
ペットボトル
製品上市



1996
小型・中型ペット
ボトル製品上市

2018

2030年PET100%
有効利用宣言

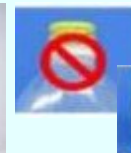
2021

2030年ボトルtoボトル
50%以上宣言

環境配慮設計

1992年
自主設計
ガイドライン

単体素材・無色透明
ミシン目入り
アルミキャップ不使用
ベースカップ不使用



30年前から
継続取組

リデュース

2004年
基準年度

2020年
軽量化率 **25.3%**
削減効果量 **17.7万トン**

回収率

1997年
10%

2020年
96.7%
EU 58%(2019年)、米国 27%(2020年)

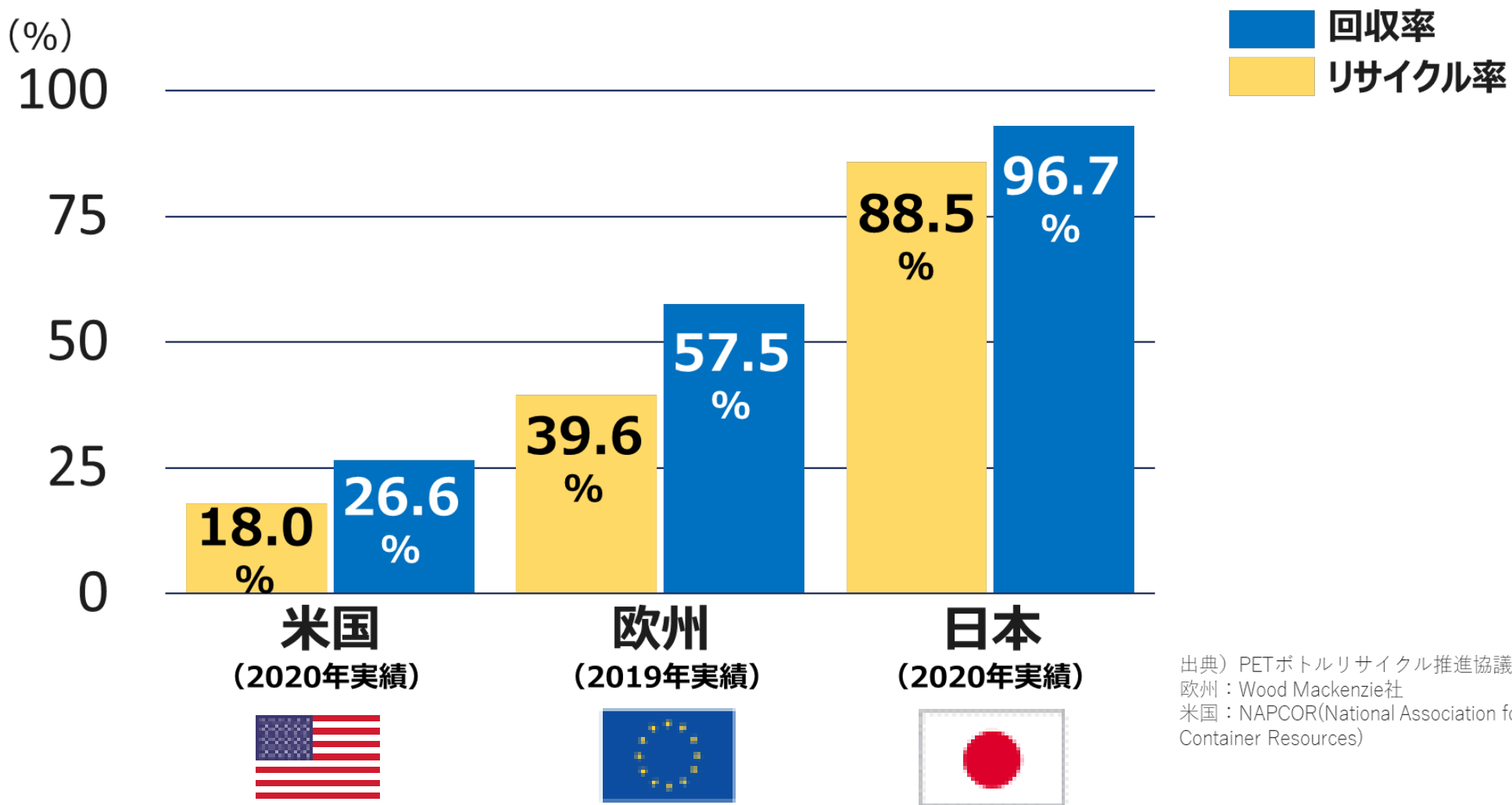
リサイクル率

2010年
83.5%

2020年
88.5%
EU 40%(2019年)、米国 18%(2020年)

日本のペットボトルの環境取組は 既に世界のトップレベル、更なる高みを目指す！

米国・欧州・日本の使用済ペットボトルの回収率とリサイクル率



ボトルtoボトル推進における多様なステークホルダーとの取組

清涼飲料メーカー

「ESG経営」と「事業活動(商品化、マーケティング、広報等)」の推進

リサイクラー・中間処理業者
ボトル・プリフォーム製造事業者
関連団体
「設備投資」「技術課題の整理」



消費者
一般企業
「消費 及び 分別排出」
にむけた啓発

自治体
排出事業者、自動販売機横
使用済ペットボトルの回収量の拡大・質の向上

関連省庁 「プラスチック資源循環法、容器リサイクル法」等の法基盤

2030年PETボトル100%有効利用宣言

2018年11月29日

「混ぜればごみ、分ければ資源」の考え方のもと、清涼飲料業界が一丸となり、
お客様、政府、自治体、関連団体等と連携しながら

資源循環型社会の形成と、海洋ごみゼロの実現を目指す！



※有効利用とは、リサイクル+熱回収

回収率推移

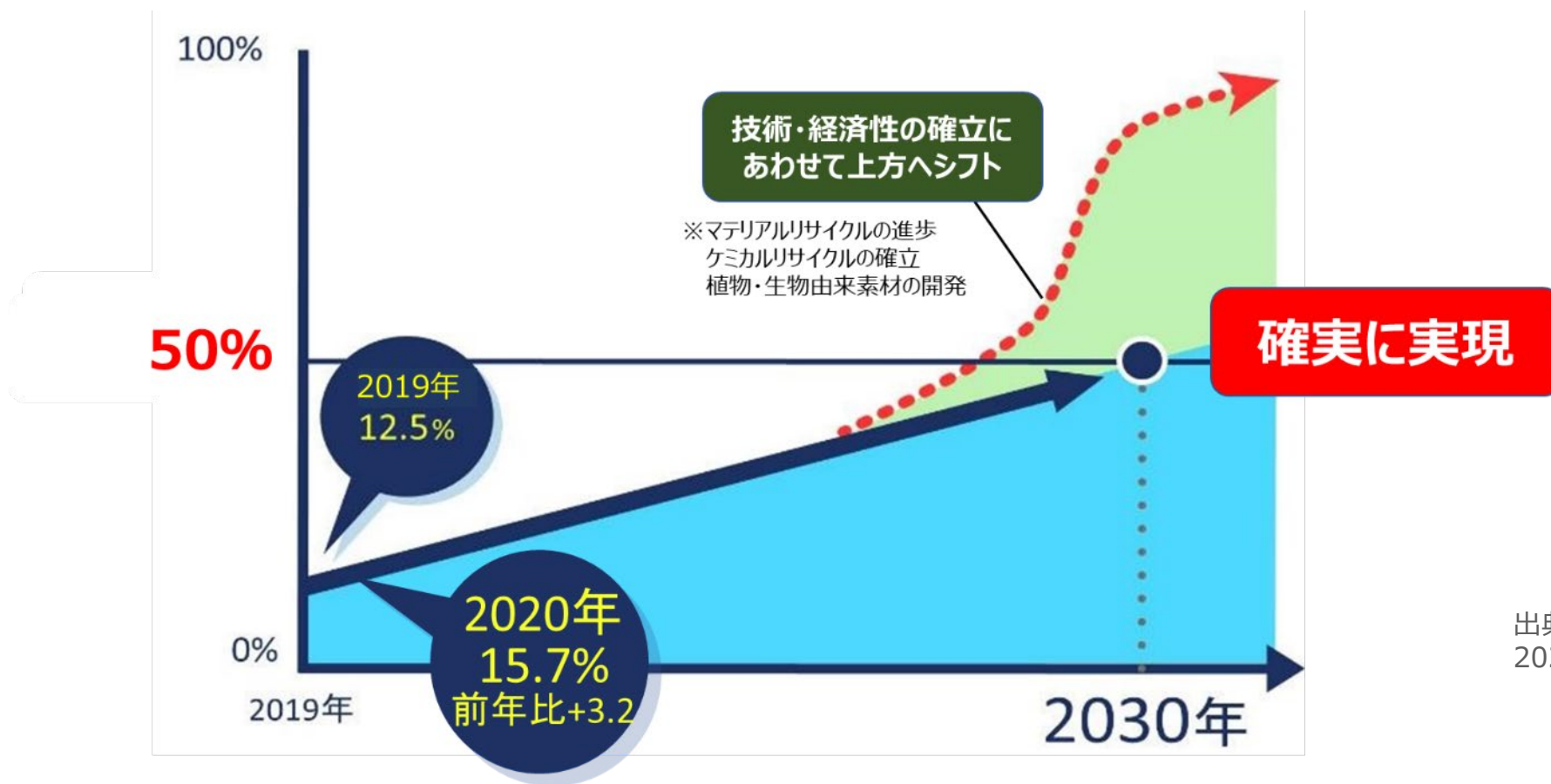
2018年	2019年	2020年	
92%	93%	97%	年々アップ

100%有効利用には100%回収が必要

「PETボトル100%有効利用宣言」は「100%回収宣言」でもある

更にボトルtoボトルの推進でCO2削減の最大化を目指す

2030年ボトルtoボトル（水平リサイクル） 比率50%以上宣言 (2021年4月に宣言)



出典)「PETボトルリサイクル年次報告書2020、2021」、PETボトルリサイクル推進協議会

2019年 ➡ 2020年で +3.2% 着実に50%に向けて前進

清涼飲料業界と自治体・事業系との取組

広島県GSHIPとの取組（2021年～）

- 海ごみ対策としての実証実験、街中の散乱防止
 - 清掃イベント
 - 地元企業や自治体とのボトルtoボトル、啓発取組
- ⇒ **2年目にむけ取組拡大**

海洋プラごみ対策

自販機
異物低減

BtoB
啓発

ゼロエミッション
ボトルtoボトル
散乱防止

ボトルtoボトル東京プロジェクト（2020年～）

- 事業者、学校での3分別、自販機異物低減
- 自治体取組
- 配送事業者における散乱抑制
- 啓発&回収機の実証

⇒ **3年目にむけ取組拡大**

神奈川県コンソーシアム

- 事業者における3分別啓発

「ゼロエミッション」「街中散乱防止と海ごみ削減」「自販機横回収における異物低減」「啓発」等
全国各地に取り組みが拡大

清涼飲料業界からの啓発

記者説明会／フォーラム



ボトルtoボトル宣言
2021年4月



新会長・新専務
就任記者会見
2022年7月



日経SDGsフォーラム
2022年9月

発刊媒体



「活動レポート」
5月発刊



「RING」
6月発刊



「清涼飲料水統計」
5月発刊

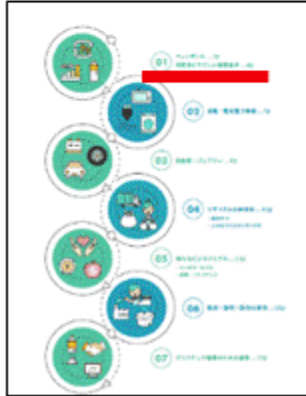


「おしごと年鑑」
6月発刊

省庁公募



循環経済パートナーシップ
2021年、2022年



気候変動アクション環境大臣表彰
2021年

出前授業

小学校への出前授業

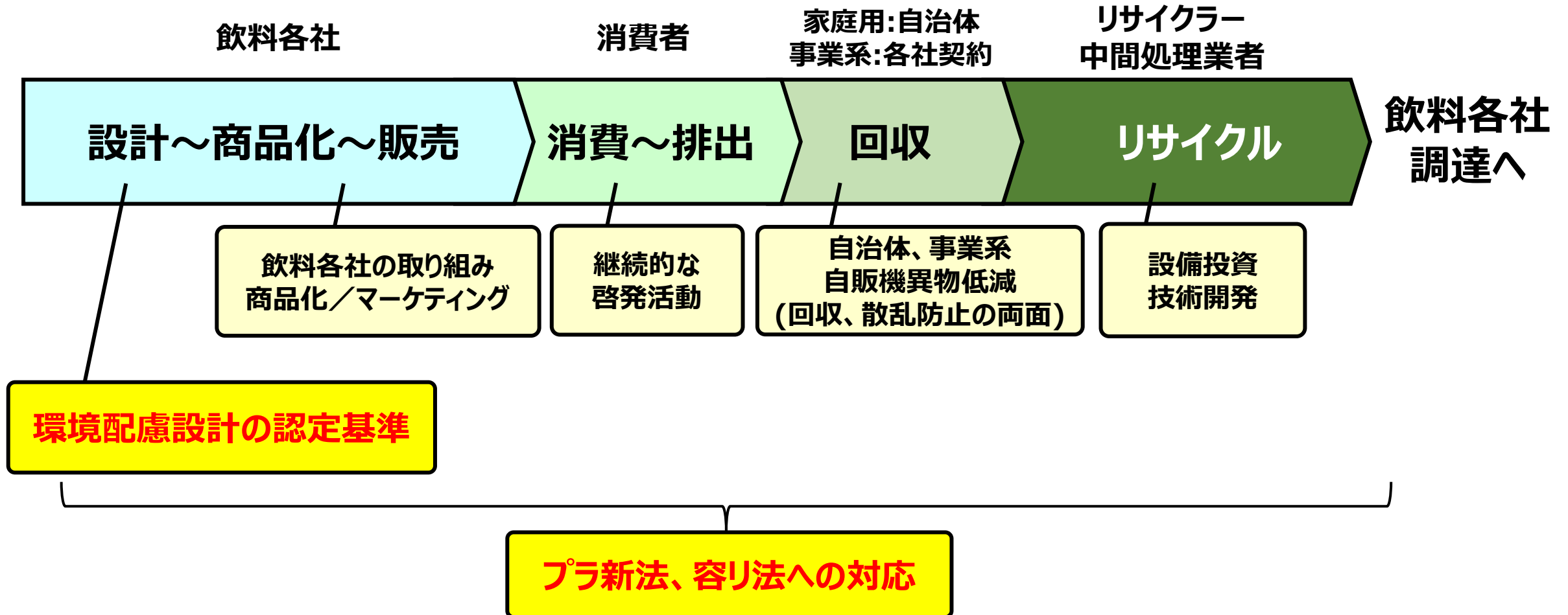


「ペットボトルは資源です」
「ボトルoボトルの推進」
啓発ビデオ

ライフサイクル全てを網羅した『社会システム』づくりへの業界取組

ボトルtoボトルフローにおける**一気通貫の仕組み化**。ステークホルダー共通の**目標設定と進捗把握**。

- ・PET100%有効利用宣言
- ・ボトルtoボトル50%宣言



清涼飲料業界のペットボトルのリサイクルに向けたロードマップ

ボトルtoボトルの実現に向けた『社会システム』づくり

2021年
2030年ボトルtoボトル
(水平リサイクル)
50%以上宣言

2018年
2030年100%有効
利用宣言
(100%回収)

水平
リサイクル
だからできる
地球環境貢献

確実な回収

ペットボトルという
地上資源最大活用

化石由来地下資源
利用の最小化

CO2排出削減

海洋プラ問題
解決への貢献

2004
基準年

リデュースの継続取組

1992

環境配慮設計としてのペットボトル自主設計ガイドライン

サーキュラー
(循環)

&

エコロジカル
(地球との共生)

エコノミー



2022

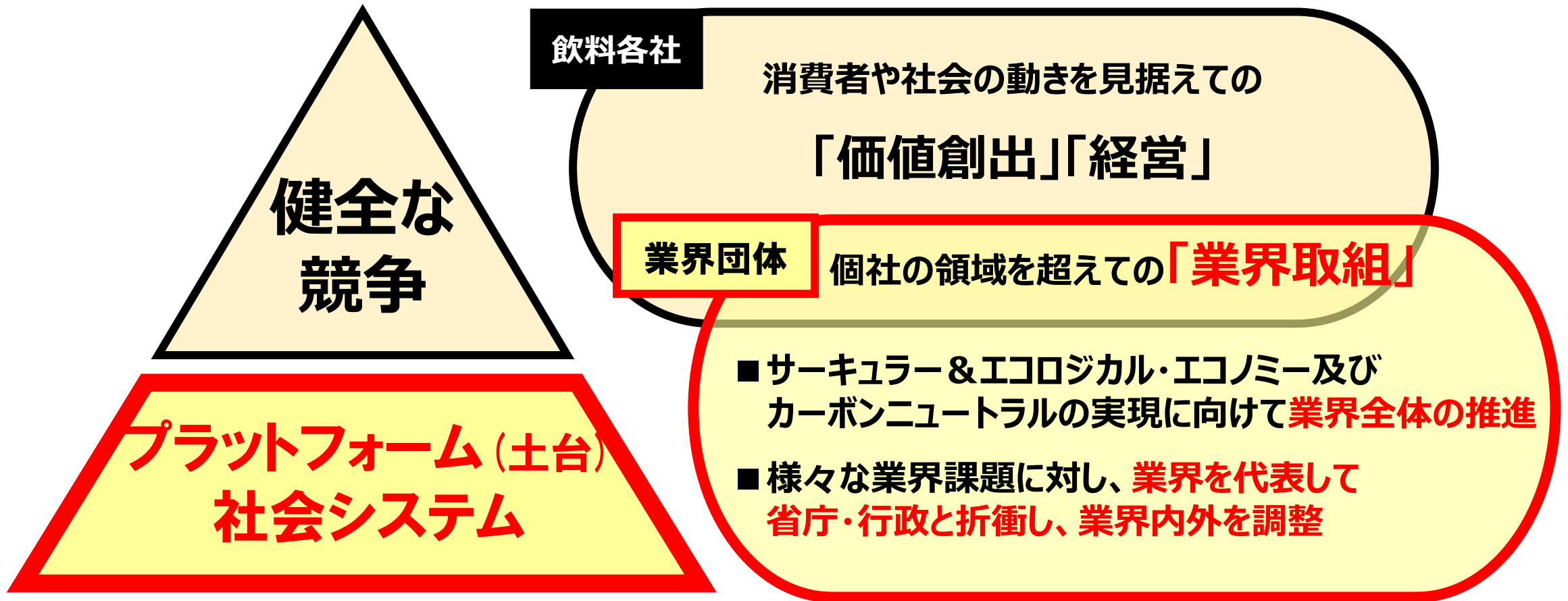
2030年
ボトルtoボトル比率50%
(水平リサイクル)

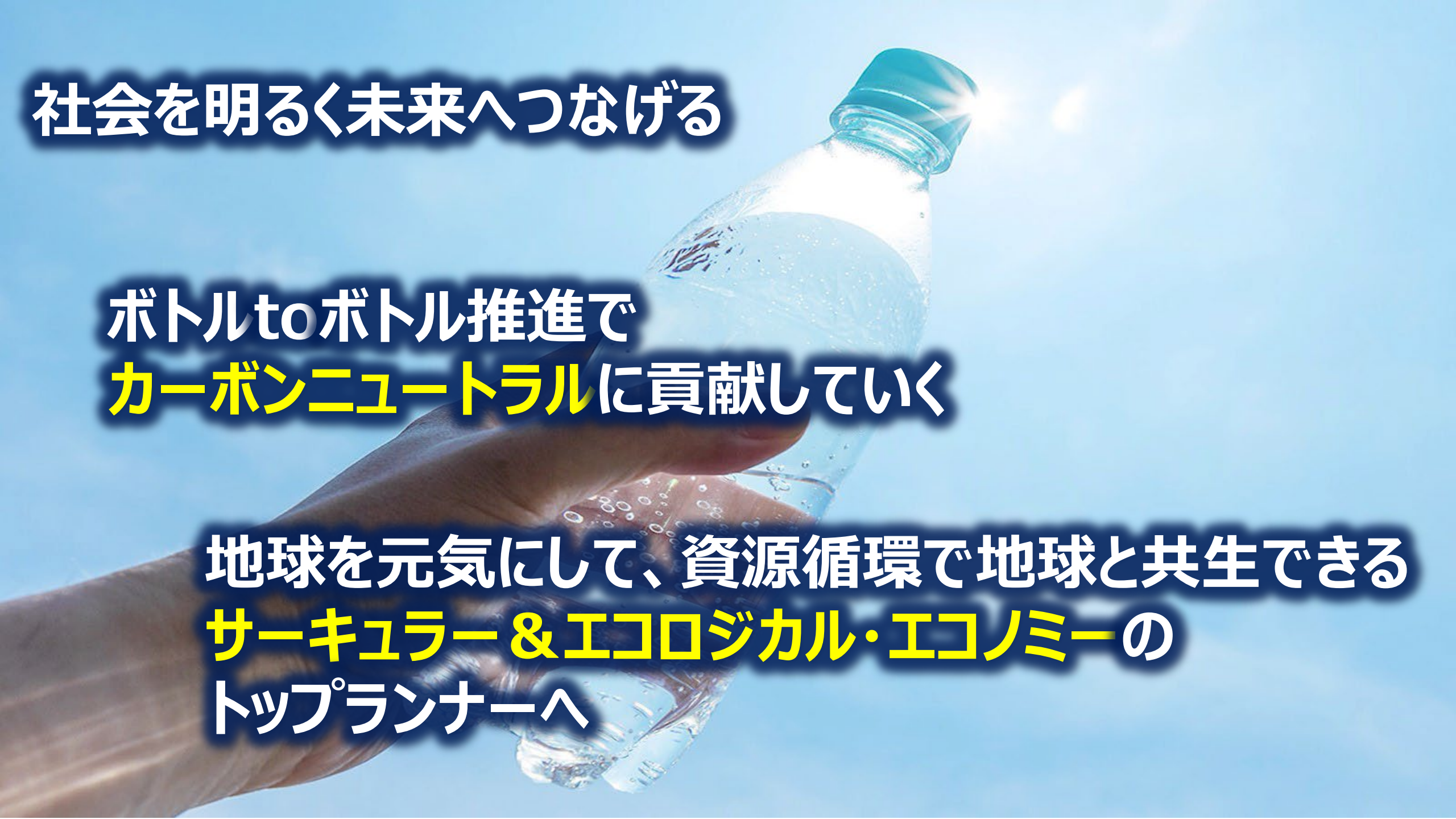
ボトルtoボトル比率
の更なる拡大

清涼飲料業界が目指す姿と業界団体の役割

清涼飲料は社会を明るくする

「安定的な市場成長」「社会の公益・業界の共益」





社会を明るく未来へつなげる

ボトルtoボトル推進で
カーボンニュートラルに貢献していく

地球を元気にして、資源循環で地球と共生できる
サーキュラー&エコロジカル・エコノミーの
トップランナーへ

ご清聴ありがとうございました。

